

平成26年(2014年) 2月の結果 (二人以上の世帯)

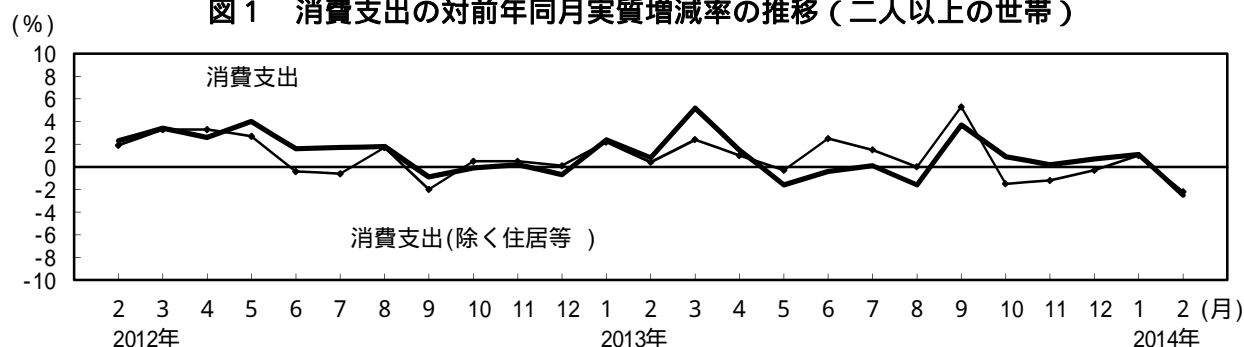
二人以上の世帯

・消費支出は、	1世帯当たり 266,610 円		
前年同月比	実質 2.5%の減少	前月比(季節調整値)	実質 1.5%の減少
	名目 0.6%の減少		
・消費支出(除く住居等)は、	1世帯当たり 230,973 円		
前年同月比	実質 2.2%の減少	前月比(季節調整値)	実質 2.4%の減少
	名目 0.3%の減少		
・勤労者世帯の実収入は、	1世帯当たり 479,268 円		
前年同月比	実質 1.3%の減少		
	名目 0.6%の増加		

：「住居」のほか、「自動車等購入」、「贈与金」、「仕送り金」を除いている。また、実質化には消費者物価指数(持家の帰属家賃を除く総合)を用いた。以下同じ。

1 消費支出の推移

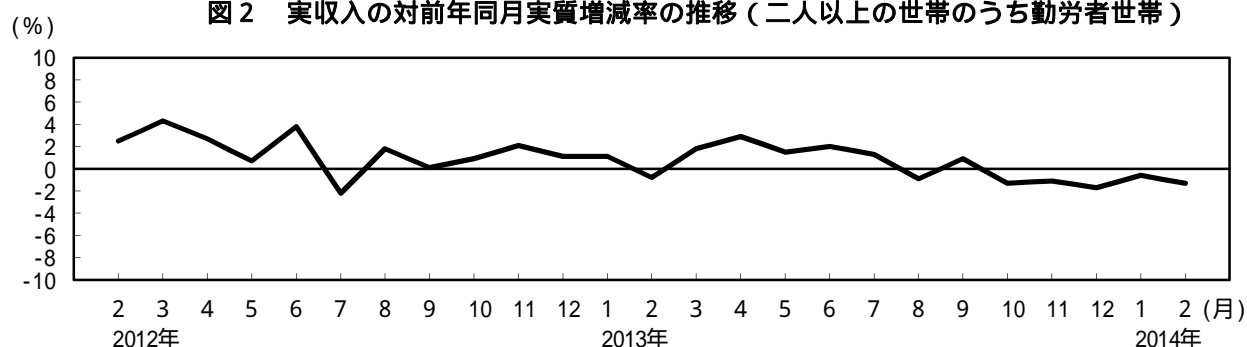
図1 消費支出の対前年同月実質増減率の推移(二人以上の世帯)



	2013年												2014年	
	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	
消費支出	0.8	5.2	1.5	-1.6	-0.4	0.1	-1.6	3.7	0.9	0.2	0.7	1.1	-2.5	
消費支出(除く住居等)	0.4	2.4	1.0	-0.3	2.5	1.5	0.0	5.3	-1.5	-1.2	-0.3	1.0	-2.2	

2 勤労者世帯の収入の推移

図2 実収入の対前年同月実質増減率の推移(二人以上の世帯のうち勤労者世帯)



	2013年												2014年	
	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	
実収入	-0.8	1.8	2.9	1.5	2.0	1.3	-0.9	0.9	-1.3	-1.1	-1.7	-0.6	-1.3	
可処分所得	-1.7	0.6	0.5	3.1	1.4	0.4	-1.4	-0.4	-1.4	-1.4	-2.1	-0.5	-1.3	
消費支出	2.7	7.6	1.1	1.4	0.9	-1.6	-0.5	3.7	-1.0	-1.6	-2.3	-0.2	-3.2	
平均消費性向*	3.3	6.3	0.5	-1.7	-0.2	-1.4	0.8	3.5	0.3	-0.2	-0.1	0.3	-1.6	

*：対前年同月ポイント差

3 消費支出とその内訳

表1 消費支出の内訳（2014年2月－二人以上の世帯）

項 目	金 額 (円)	対前年同月増減率(%)		実質増減率への寄与度(%)	摘 要	備 考
		名 目	実 質			
消 費 支 出	266,610	-0.6	-2.5	-2.5		6か月ぶりの実質減少
食 料	62,826	1.7	-0.3	-0.06	〈減少〉 魚介類, 菓子類など	12か月ぶりの実質減少
住 居	16,168	10.0	10.2	0.56	〈増加〉 設備修繕・維持	6か月連続の実質増加
光 熱 ・ 水 道	31,480	4.2	-1.5	-0.17	〈減少〉 ガス代, 他の光熱など	5か月連続の実質減少
家具・家事用品	10,051	28.0	25.4	0.74	〈増加〉 家庭用耐久財, 寝具類など	4か月連続の実質増加
被服及び履物	8,384	-8.0	-9.2	-0.31	〈減少〉 洋服, シャツ・セーター類など	3か月ぶりの実質減少
保 健 医 療	12,595	7.3	7.8	0.35	〈増加〉 保健医療サービス, 保健医療用品・器具など	4か月連続の実質増加
交 通 ・ 通 信	39,452	-2.9	-4.1	-0.63	〈減少〉 自動車等関係費, 交通など	6か月ぶりの実質減少
教 育	10,226	-12.8	-13.4	-0.58	〈減少〉 授業料等, 補習教育	5か月連続の実質減少
教 養 娛 楽	23,573	-10.4	-11.8	-1.16	〈減少〉 教養娯楽サービス, 教養娯楽用品など	2か月ぶりの実質減少
その他の消費支出	51,855	-4.1	(-5.9)	(-1.18)	〈減少〉 こづかい, 仕送り金など	3か月連続の減少
消 費 支 出 (除く住居等※)	230,973	-0.3	-2.2	—		2か月ぶりの実質減少

※：「住居」のほか、「自動車等購入」、「贈与金」、「仕送り金」を除いている。また、実質化には消費者物価指数（持家の帰属家賃を除く総合）を用いた。

注1 「摘要」欄は、消費支出の実質増減率への寄与度の大きい項目を掲載した。ただし、「その他の消費支出」については名目増減率の大きい項目を掲載した。

2 「その他の消費支出」の実質化には消費者物価指数（持家の帰属家賃を除く総合）を用いた。

消費支出の実質増減率に寄与した主な中分類項目及び品目

中 分 類

品 目

<減少項目>

実質寄与度

教養娯楽サービス	[-1.01]	外国パック旅行費, 自動車教習料
交際費	[-0.74]	贈与金, つきあい費
自動車等関係費	[-0.52]	自動車整備費, ガソリン
授業料等	[-0.31]	私立大学, 私立中学校
家賃地代	[-0.28]	民営家賃, 給与住宅家賃
補習教育	[-0.27]	中学校補習教育
洋服	[-0.20]	婦人用コート, 婦人服

<増加項目>

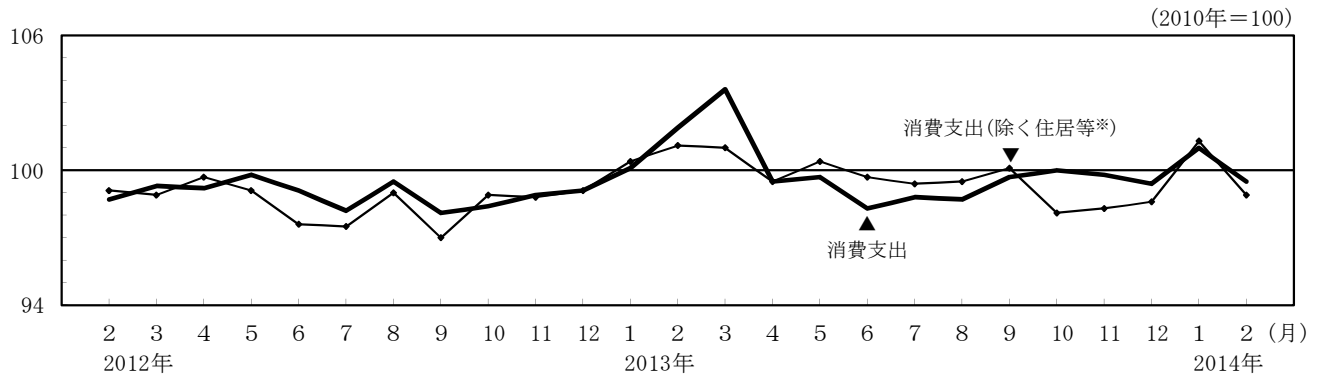
設備修繕・維持	[0.84]	設備器具, 給排水関係工事費
家庭用耐久財	[0.44]	電気冷蔵庫, 電気洗濯機
保健医療サービス	[0.21]	歯科診療代, 他の入院料*
保健医療用品・器具	[0.18]	眼鏡

注1 主な中分類項目を寄与度順に掲載した。

2 交際費の実質化には消費者物価指数（持家の帰属家賃を除く総合）を用いた。

* 「他の入院料」とは、「出産入院料」以外の入院料をいう。

図3 消費支出（季節調整済実質指数）の推移（二人以上の世帯）



	2013年												2014年	
	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	
消 費 支 出	101.9	103.6	99.5	99.7	98.3	98.8	98.7	99.7	100.0	99.8	99.4	101.0	99.5	
対 前 月 変 化 率 (%)	1.8	1.7	-4.0	0.2	-1.4	0.5	-0.1	1.0	0.3	-0.2	-0.4	1.6	-1.5	
消費支出(除く住居等※)	101.1	101.0	99.5	100.4	99.7	99.4	99.5	100.1	98.1	98.3	98.6	101.3	98.9	
対 前 月 変 化 率 (%)	0.7	-0.1	-1.5	0.9	-0.7	-0.3	0.1	0.6	-2.0	0.2	0.3	2.7	-2.4	

※：「住居」のほか、「自動車等購入」、「贈与金」、「仕送り金」を除いている。また、実質化には消費者物価指数（持家の帰属家賃を除く総合）を用いた。

注1 季節調整の方法は、センサス局法(X-12-ARIMA)を用いた。

2 季節調整値は、毎年1月結果公表時に、過去に遡って改定している。

4 勤労者世帯の収支

表2 収支の内訳（2014年2月－二人以上の世帯のうち勤労者世帯）

項目	金額 (円)	対前年同月増減率(%)		実質増減率への寄与度(%)	備考
		名目	実質		
実収入	479,268	0.6	-1.3	-1.3	5か月連続の実質減少
世帯主収入	353,780	2.0	0.1	0.10	9か月連続の実質増加
定期収入	350,109	1.7	-0.2	-0.15	3か月ぶりの実質減少
配偶者の収入	54,395	-0.7	-2.6	-0.29	7か月連続の実質減少
他の世帯員収入	7,936	-5.3	-7.1	-0.12	4か月連続の実質減少
非消費支出	80,987	0.7	—	—	9か月連続の増加
可処分所得	398,281	0.6	-1.3	—	7か月連続の実質減少
消費支出	294,509	-1.4	-3.2	—	5か月連続の実質減少
平均消費性向(%)	73.9	(前年同月) (ポイント差)		75.5	季節調整値でみると、75.9%で、前月と同水準となった。
			-1.6		

注1 「非消費支出」とは、税金や社会保険料など、世帯の自由にならない支出である。

「可処分所得」とは、実収入から非消費支出を差し引いた額で、いわゆる手取り収入のことである。

「平均消費性向」とは、可処分所得に対する消費支出の割合である。

2 実収入には、勤め先収入(世帯主収入、配偶者の収入及び他の世帯員収入)のほか、事業・内職収入や社会保障給付などが含まれる。